

学部・研究科等の現況調査表

教 育

平成22年6月

徳島大学

目 次

1. 保健科学教育部

2-1

1. 保健科学教育部

II	分析項目ごとの水準の判断	・・・	2 - 2
	分析項目 V	進路・就職の状況	・・・ 2 - 2

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目V 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

平成19年度の第1期修了生及び平成20年度の第2期修了生に本学における教育の成果・効果に関するアンケート調査を平成22年1月に実施した結果(別添資料:表1), 83.3%が「専門基礎領域に関する知識とそれを活用する能力」が向上した, また11.1%がやや向上したと回答した。また「専門領域において問題解決する能力」についても58.3%が3段階評価において3の向上度を示した。さらに, 就職先上司からのアンケート調査回答(別添資料:表2)では, 全ての上司が「専門領域の知識とその運用能力を身につけている」(≧4)と回答しており, 全修了生が専門知識と応用力を身につけたと判断される。その他, 上司からは「幅広い教養」, 「問題解決する能力」, 「積極的に企画し行動する能力」等, すべての項目において5段階評価で平均4以上の高い評価を得た。

以上のように, 本教育部が目指す, 「保健・医療・福祉の充実に貢献できる医療人の育成」の観点より, 本教育部が重点的に取り組んだ複数教員による教育研究指導体制等の効果により, 本学修了生が身につけた学力や資質・能力は関係者から高く評価され, 教育目標を達成していると判断される。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 進路の状況は, 全修了生が自分の希望や学習内容を生かせるような医療領域又は医療関連教育機関に就職している。

また, 関係者からの評価では, 修了生及び就職先の上司のいずれからも高い評価を受けていることから, 期待される水準にあると判断する。